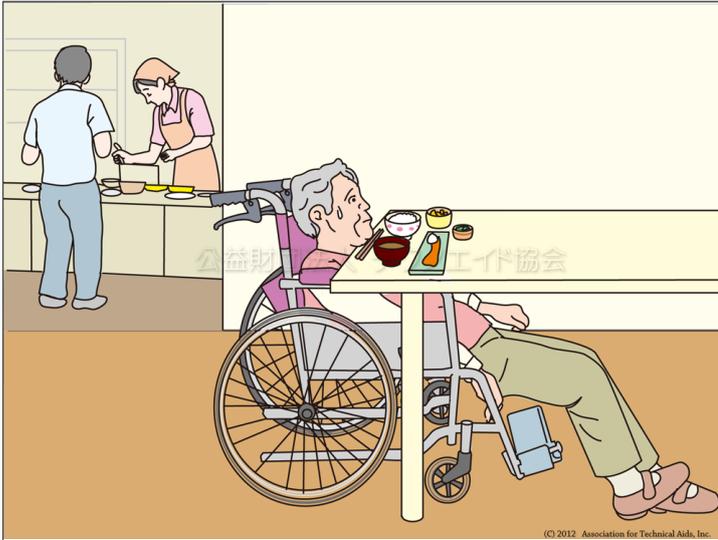


Case : 8

車いす上でずっこけ姿勢になり、すべり落ちそうになる

場面の説明

テーブルの前に移動させ、介助者が利用者から目を離した際、利用者がずっこけ姿勢になり、すべり落ちて首がテーブルに挟まりそうになった



利用シーン	 食事
主な利用場所	 リビング・居間
	 ダイニング・食堂
介護保険の種目	 車いす
分類コード (CCTA95)	122106 (後輪駆動式車いす)
介護テクノロジー	—
二次元バーコード	

解説

利用者の体格に合わない車いすに長時間座ると、姿勢が崩れることがあります。特に、お尻が前方にすべるずっこけ姿勢から床に落ちたり、首を机に挟んだりすることもあり注意が必要です。体格に合う車いすの利用や、クッション・パッドなどで姿勢が崩れない工夫をしましょう。

参考要因（要因の例であり、これだけが正解ということではありません）

人：高齢者だから姿勢が崩れても仕方がないと思っていた

モノ：車いすが利用者に合っていない

環境：介助者から見えづらかった

日付：	所属：	氏名：
-----	-----	-----

Case : 8

車いす上でずっこけ姿勢になり、すべり落ちそうになる

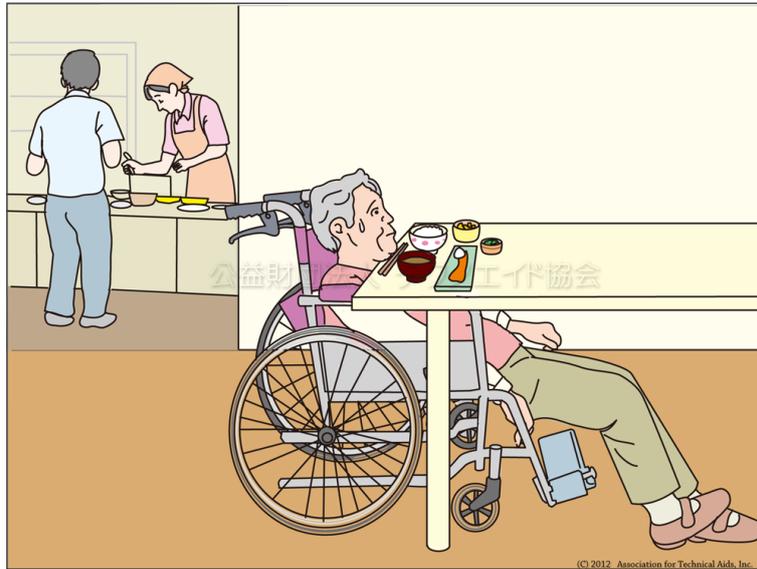
事例詳細



回答前に見ないこと

場面の説明

テーブルの前に移動させ、介助者が利用者から目を離した際、利用者がずっこけ姿勢になり、すべり落ちて首がテーブルに挟まりそうになった



どのような要因が考えられますか？	どのような対策が必要でしょうか？
人（本人・介護者・関係者）の要因	
モノ（福祉用具）の要因	
環境の要因	
管理の要因	

メモ